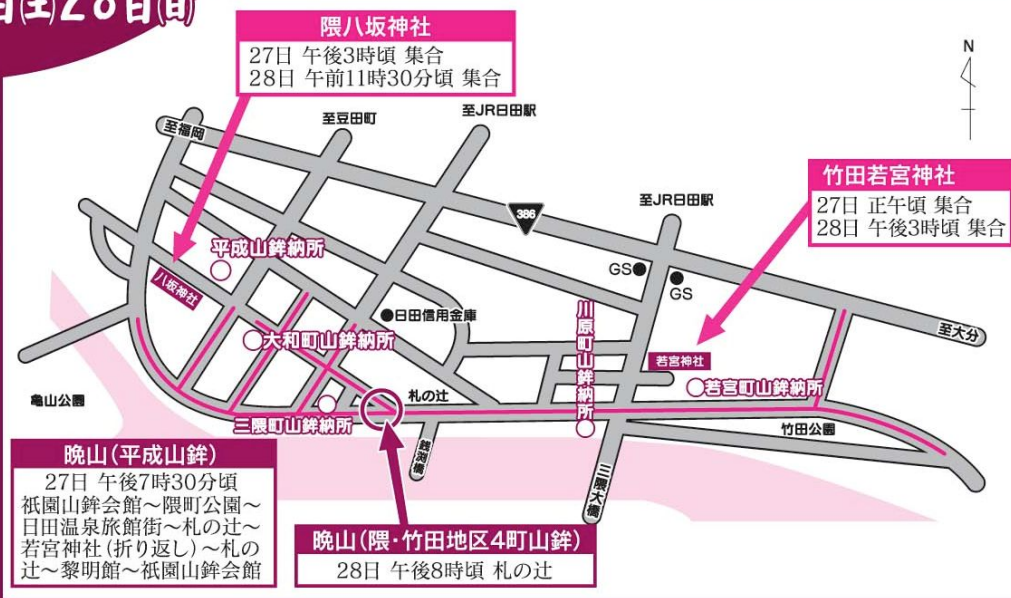
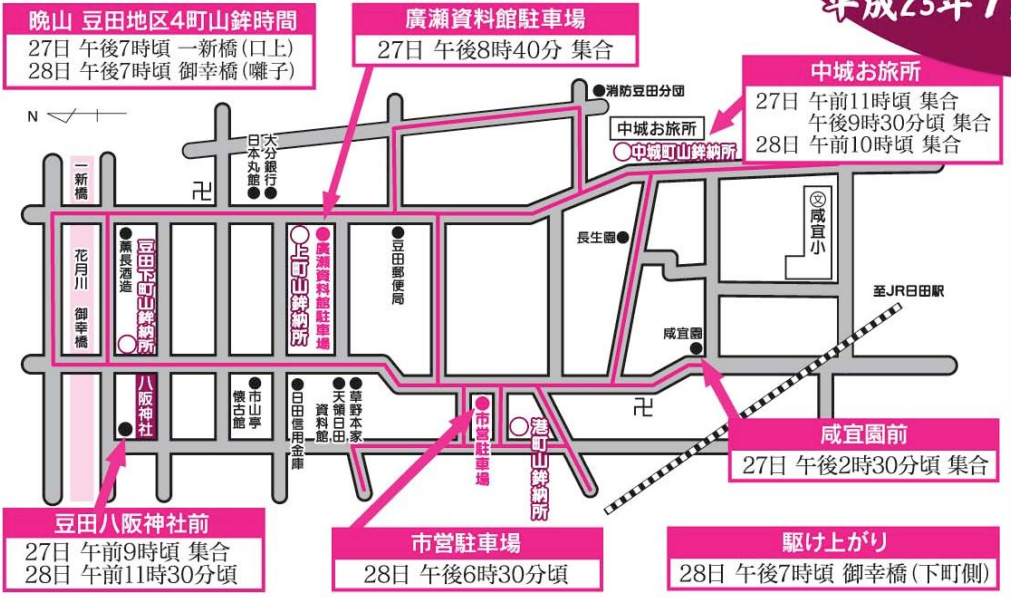


豆田地区

※豆田地区は、夜間(午後6時～午後10時)車輛進入禁止になります。

日田祇園山鉾巡行予定図 平成25年7月27日(土)28日(日)

隈・竹田地区



【豆田の起り】

江戸時代の慶長6年(1601年)に、小川壺岐守光氏が丸山城と称して月隈山(現・月隈公園)に築城した際に、城の東側に十二町村から商家を移して町が開かれました。元和2年(1616年)には譜代の石川主殿忠総が丸山城を改築して永山城と改め、城下の武家屋敷を花月川の対岸まで拡大し、豆田町としました。その後、幕府の天領となり代官所が置かれ、昇格し西国筋郡代役所になり、九州の政治、金融の中心として栄えました。また、幕末には廣瀬淡窓が咸宜園を開き、全国から塾生が集まってきました。



【隈の起り】

文禄3年(1594年)に、豊後日田・玖珠2万石の蔵入地代官を務めた豊臣秀吉配下の、宮木豊盛(長次郎)が日隈山(現在の亀山公園)に城を築き、その対岸に開いた城下町が起源です。慶長元年(1596年)には、後に豊後佐伯藩の初代藩主となる毛利高政によって、現在の町割りの原型が作られたと言われています。当時は、現在の中本町、隈1・2丁目を二重の堀と土塁で囲み、要所に木戸門を設けて朝夕に開閉していたと言われています。



豆田上町

江戸期の八幡町、平野町、室町が1町に併し上町になりました。昔は3町が交代で山鉾を造ったので見送り幕が3枚あり、今年は室町の見送りを載せます。

見送り『鯉の滝上り』
天保11年(1840年)制作

港町

港町の山鉾は、町並みに合わせた山鉾で、運行距離も長く、町内各所をくまなく回ります。平成22年に新調した「見送り」と「水引幕」は必見です。

見送り『牡丹に唐獅子』
平成22年(2010年)復元新調

川原町

川原町の山鉾は、昨年水引幕を120年ぶりに新調しました。睨みあった龍と虎が勇壮で躍動感ある姿に刺繍されており、豪華絢爛に仕上がっています。

見送り『素養鳴尊大蛇退治』
平成8年(1996年)制作

三隈町

三隈町の山鉾は、平成19年に新調されたもので、全体のバランスを重要視した、美しいシルエットが特徴です。

見送り『龍』
昭和60年(1985年)制作

豆田下町

豆田下町の山鉾は、横幅、車輪の直径が市内最大級の大きさと、重厚感のある造りが特徴です。

見送り『鳳凰』
天保7年(1836年)制作

中城町

中城町の山鉾は、電線の高さ等の状況に応じて、高さを最大8mにまで伸ばせる仕組みが特徴です。

見送り『玄武』
嘉永2年(1849年)制作

大和町

大和町の山鉾は、100年もの間活躍した山鉾が平成22年に勇退し、昨年新調されました。高さ10mの新しい山鉾を是非ご覧ください。

見送り『鷲』
明治39年(1906年)制作

若宮町

若宮町の山鉾は、昭和12年に一旦途絶えましたが、昭和54年に復活し、今年新調されました。見送りの獅子に負けぬ迫力の巡行をご覧ください。

見送り『唐獅子』
昭和58年(1984年)制作